



顧客成功事例

## Purpose Financial

EDB Postgres® AI で  
融資データの安全性と  
拡張性を強化





## 顧客： PURPOSE FINANCIAL

2016年より EDB の顧客

Jyothi Bhomireddy

Director of Data Operations, Purpose Financial

課題：Purpose Financial は、オンプレミスの環境からスケーラブルな Postgres および AWS クラウドアーキテクチャに移行し、長期的な運用の円滑さと金融データの安全性を確保することを目指していました。

EDBソリューション: [EDB Postgres Advanced Server](#), [EDB Remote DBA Service](#)

Postgres と EDB の Remote DBA サービスを取り入れることで、Purpose Financial は大きなコスト削減を達成し、拡張性と性能を向上させました。戦略的なバックアップ、メンテナンス、データ保護策を実施することで、Purpose Financial はデジタル変革を進め、将来的な融資の革新を支える基盤を整えています。

### 概要

## EDB Postgres と Remote DBA を活用した次世代の融資サービスの実現

Purpose Financial の目標は、すべてのお客様が自身の理想とする経済的安定を現在と未来にわたって実現できるよう助けることです。貯蓄や信用にアクセスできない方、十分な銀行サービスを受けられない方、より良い経済的基盤を求める方々に対し、Purpose Financial は状況に応じた多様で革新的なソリューションやリソースを提供し、変化する金融ニーズに応えています。Advance America および Purpose Money ブランドを通じて提供される使いやすい借入オプションにより、当社はアメリカで最大級の州認可消費者金融会社の一つに成長しました。Purpose Financial の強力で安全なデータベース運用は、急速に進化する銀行・金融サービス・保険 (BFSI) 業界での成功の鍵となっています。今後も、データを効率的かつ効果的に保存・管理することが、事業の持続的な成功には欠かせないと考えています。





「EDB のリモート DBA サービスは、移行計画時に大きな転機となりました。」

Jyothi Bhomireddy  
Director of Data Operations  
Purpose Financial

## 「オープンソースによる成長投資の加速」

Purpose Financial は、データ駆動のテクノロジースタックを活かし、重要なデータの安全で円滑な流通を重視しています。コスト削減と新たな金融データ技術の導入を目指す中で、EDB Postgres AI が理想的なデータベースソリューションであることが明らかになりました。EDB Postgres の利用により、極めて機密性の高い金融データを漏洩から守りつつ、急増するデータを効率的に管理し、顧客へのサービスを途切れずに提供できるようになりました。

現在、Purpose Financial の Omni は集中管理リポジトリとして EDB Postgres を採用し、ローン処理、顧客照会、適格性確認などの重要な業務プロセスを安全に運用しています。

## 「最良の結果を追求する提携」

Purpose Financial は、オープンソースへの移行において積極的行動し、強固なアーキテクチャを構築しました。さらに、災害復旧機能も組み込まれています。社内では、スタンバイサーバーを利用して、業務処理や変更データキャプチャ、レポート作成といった作業を分離しています。加えて、カスクードレプリケーションや Pgpool を用いたマイクロサービス間のトランザクションの負荷分散を実施し、データベース運用の効率を大幅に向上させています。

EDB の Remote DBA Service を見つけ、我々の運営は劇的に変わりました。Purpose Financial データ運用部門の Jyothi Bhomireddy 氏は、「このサービスにより、システムへのアプローチが大幅に変化しました」と言います。「リソース管理を簡素化し、最適化とシステムの安定性を大いに向上させています。」

その結果、チームは社内の負担を大きく軽減しながら、短期間で高性能で信頼性のあるデータベース環境を実現しました。

## 次なる戦略的ステップ：オンプレミスからクラウドへ

Purpose Financial は当初、すべてのデータセンターをオンプレミスで運営していましたが、インフラの近代化を図る一環として、AWSクラウドと EDB Postgres への移行を決定しました。その際、EnterpriseDB (EDB) はデータ運用チームと緊密に連携し、計画から実行までの全てをサポートしました。

移行前に、EDB のリモート DBA チームはシステムの健康状態をチェックし、Purpose Financial のバックアップ戦略における重要な改善点を特定しました。EDB からの提案を受け、Purpose Financial は本番環境向けのバックアップスクリプトを実装し、復元テストを継続的に行う体制を整えました。これにより、バックアップの復元精度と安全性が確保されるようになりました。

この新しいバックアップ戦略は、重大なシステム障害時に非常に効果的でした。EDB の支援により、Purpose Financial は従来の方法では難しかった迅速かつ確実なデータベースの復旧を実現しました。リモート DBA サービスは、環境の安定化と積極的なシステム改善を通じて、企業データの安全も確保しました。

## スマートな監視でデータの可用性を確保

Purpose Financial は金融サービスの企業として、膨大なトランザクションデータを扱い、高度な機密性を保った銀行や保険情報を管理しています。これらの大規模なデータテーブルは、マイクロサービスやレポーティング機能から同時にリクエストを受けるため、データベースの使用状況に応じて様々な運用上の課題が生じます。





これらの課題に対処するため、Remote DBA チームは Purpose Financial が既に使用している監視ツールに加え、センチネル監視を導入しました。この結果、メモリ不足やストレージ制限といった潜在的な問題を事前に把握できる包括的な監視体制が整い、パフォーマンスに影響が出る前にリソースの必要に応じた対応が可能となりました。その結果、企業は業務が最も集中するピーク時にも、システム資源を効率的に管理し、安定したパフォーマンスを保つことができるようになりました。

EDB の Remote DBA サービスは、スタンバイサーバーに影響を与える可能性のある WAL (書き込み前ログ) ファイルの急増にも対応しています。EDB のチームはこれらの状況を注意深く見守り、Purpose Financial のアプリケーションやスタンバイサーバーがスムーズに機能し続けるように対策を行っています。

さらに、EDB のリモート DBA サービスは、標準のバキューム設定を特注のスケジュールに置き換えることで、データベースのメンテナンスを最適化しました。24 時間 365 日の運用制約を考慮し、EDB は利用状況を分析し、大規模テーブルのバキューム処理を安全に行える低トラフィック時間帯を特定しました。このような戦略的なスケジューリングによって、データベースの性能が向上し、社内のチームも顧客も変化に気づかないほど円滑に運用できました。



必要なセキュリティプロトコルを全て満たすことは一つの旅であり、変革の過程ですが、EDB と共に進むことで、より円滑に進んでいます。

**Jyothi Bhomireddy**  
Director of Data Operations  
Purpose Financial



#### EDB Postgres AIについて

EDB Postgres AIは、企業向けに設計された初のオープンなデータ&AIプラットフォームです。高い安全性とコンプライアンス、そして柔軟なスケーラビリティを備え、オンプレミスやクラウド環境で運用できます。世界中のパートナーとの連携により、トランザクション処理や分析、AIのワークフローを統合し、必要なタイミング・場所・方法でデータやLLMを活用できる環境を実現します。詳しくは[www.enterprisedb.com](http://www.enterprisedb.com)をご覧ください。

© EnterpriseDB Corporation 2025. 無断転載を禁じます。

## 妥協なきコンプライアンス

AWSへのクラウド移行では、スケーラビリティを維持しつつ、高度な機密性を持つ個人情報（PII）を安全に守り、コンプライアンス要件を満たす暗号化ストレージの導入が重要な課題でした。EDB のリモート DBA チームは、包括的なロールベースのアクセス制御を導入することでこれらの課題に対処しました。さらに、暗号化ストレージの選定や設定に関する専門的なアドバイスを提供し、既存リソースのクラウド対応マッピングや技術的な問題に対する最適な解決策も提案しました。この専門的な知識のおかげで、Purpose Financial は、保存データやコールドストレージを含む全ての必要なセキュリティプロトコルを満たす暗号化環境を実現することに成功しました。

「全てのセキュリティプロトコルを遵守するのは容易ではありませんが、EDBのおかげで随分と楽になりました」と Bhomireddy 氏は述べています。

EDB の SOC 2 Type 2 認証を取得したサービスは、PII データの管理に必要な基本的なセキュリティを超えた保護を提供します。データの分離、詳細なアクセス制御、役割に基づく権限管理、クラスター単位の安全性、転送時と保存時の暗号化、徹底した監査ログなど、総合的なアプローチで対応しています。Purpose Financial のような規制のあるクライアントに対しては、データ保持や安全な転送・保存プロトコルを含むすべての管理プロセスを厳密かつ監査可能な方法で維持しています。

## コスト削減から最先端へ

Bhomireddy 氏は、「もし Purpose Financial が新しいアーキテクチャやアプリケーションの導入時に EDB 以外を選んでいたら、ベンダーロックインなどの影響でライセンス費用が 60~70%も増加していたでしょう」と述べています。「EDB を選択したことでの、単一ベンダーへの依存リスクを軽減しつつ、より効率的にコストを抑えて目標を達成できました」ともコメントしています。

Purpose Financial は一つのアプリから始まり、現在は約 40 のアプリが Omniデータベース上で稼働しています。Bhomireddy 氏は「EDB のおかげで、事業が成長するにつれて、データベースを柔軟にスケーリングできました。EDB リモート DBA チームの支援に心から感謝しています。」と述べています。